

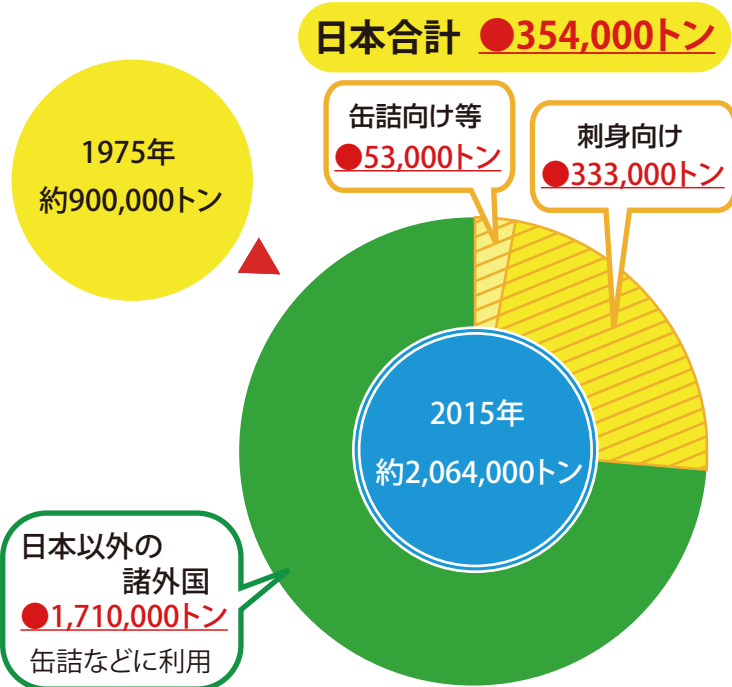
2000年12月、OPRTはマグロに関する生産、流通、消費等の全ての関係団体を会員としてスタート。マグロ資源の持続的利用のため、責任ある漁業を推進するOPRTの活動に賛同する各国のマグロ漁業団体も順次加入し、現在に至っています。

正式会員および登録漁船の状況 (2019年3月現在)

会員団体	登録隻数
生産者団体	
日本かつお・まぐろ漁業協同組合	170
一般社団法人 全国遠洋かつお・まぐろ漁業者協会	
一般社団法人 全国近海かつお・まぐろ漁業協会	
台湾区遠洋鮪延縄釣漁船魚類輸出業同業公会	297
特別法人 韓国遠洋産業協会	110
まぐろ延縄漁業委員会	
フィリピンインターナショナルまぐろはえ縄協会	6
インドネシアまぐろ協会 (ASTUIN)	8
中国遠洋漁業協会	198
エクアドル責任あるまぐろ漁業推進協会	7
セイシェル遠洋漁業マネージメント	53
ミクロネシア連邦水産協会	1
ツバルまぐろ協会	0
キリバス・ナレオまぐろ船主協会	1
マーシャルまぐろ漁業協会	[6(予定)]
バヌアツ・ミンダー漁業	53
クック諸島商業漁業協会	[6(予定)]
小計	916
賛助会員	0
総登録隻数	916
流通業者団体	
一般社団法人 全国水産卸協会	
全国水産物卸組合連合会	
全国水産物商業協同組合連合会	
消費者団体	
一般社団法人 全国消費者団体連絡会	
公益法人	
公益財団法人 海外漁業協力財団	
一般社団法人 大日本水産会	
公益社団法人 日本水産資源保護協会	
合計	23団体

世界のマグロ消費量と日本の刺身マグロ市場

世界と日本市場への
マグロ生産・供給の拡大



日本は世界で最大のさしみマグロ消費国です。マグロ資源を末永く利用できるように消費国としても責任を果たす必要があります。



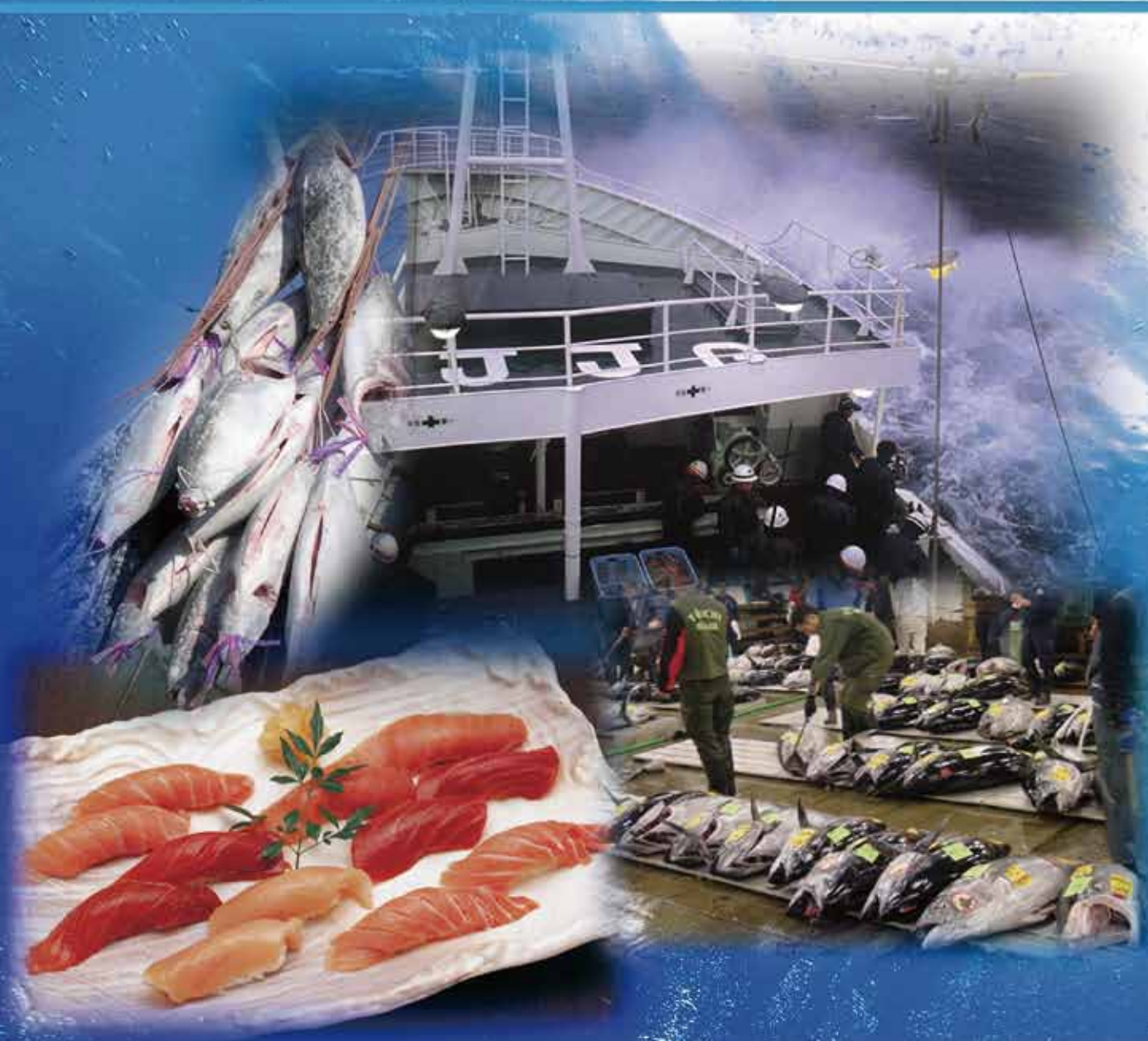
マグロ漁業に関する国際機関(地域漁業管理機関)



マグロは高度回遊性魚種。国連海洋法条約第64条は、各国に対し、マグロの保存を確保し、その最適利用を促進するため、国際機関を通じて協力することと定めています。現在、全ての海洋で国際機関が設立されています。

OPRT

一般社団法人
責任あるまぐろ漁業推進機構



マグロは限りある天然資源



マグロをとりすぎないように、末永く利用できるようにする為に活動しています。

マグロのイロハが分かるホームページは情報がいっぱい！マグロ料理の美味しいレシピも載ってるよ！！

www.oprt.or.jp

OPRT 一般社団法人 責任あるまぐろ漁業推進機構

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル9階 TEL:03-3568-6388 FAX:03-3568-6389

www.oprt.or.jp

OPRTの活動と実績

■世界のマグロ漁船の登録

刺身用にマグロを獲る世界の大型はえ縄漁船の90%以上がOPRTに登録され、国際ルールを守って操業しています。

■IUU漁船の廃絶

OPRTはIUU*マグロはえ縄漁船の廃絶に取り組みました。2001年から2003年まで、OPRTは、日本と台湾のマグロ業界の協力を得て、IUUマグロはえ縄漁船39隻をスクラップ処理、4隻を廃棄し、国際社会によるこの問題への取組を推進しました。

* IUU: 違法 (Illegal)、無規制 (Unregulated)、無報告 (Unreported) の略

■IUUマグロの流通防止

OPRTは日本が輸入するマグロの生産履歴(漁船・漁場・魚種等)のモニターやDNA検査(魚種・漁場とデータの整合性確認)等により、IUU漁船の獲ったマグロの流通を防止しています。

■ポジティブリスト制度をサポート

OPRTはポジティブリスト制度*の早期実施を推進しました。この制度は2002年に大西洋から始まり、2003年に国連食糧農業機関(FAO)水産委員会でその世界的実施の必要性が確認され、ポジティブリスト制度が確立されました。ポジティブリスト制度により、IUU漁船は市場を失いましたが、その根絶には引き続き監視が必要です。

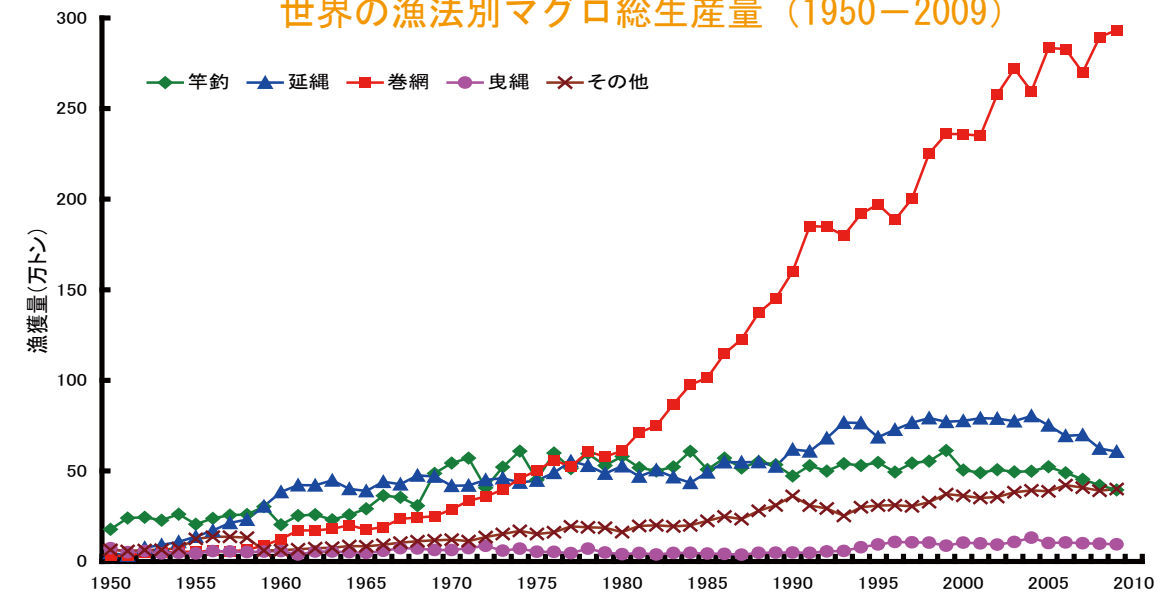
* 地域漁業管理機関が船籍国により管理されている漁船を登録する制度。このリストにある漁船のみがマグロの国際取引を認められている。

■漁獲能力の抑制

獲りすぎでマグロ資源が衰退し、安定供給がストップすることのないようOPRTは世界の大型はえ縄漁船が増えないようにしています。マグロを獲る他の漁業(例:まき網漁業)にも協力を呼びかけています。

* 世界マグロ延縄漁業会議(2003年8月東京)において、OPRT会員は、マグロはえ縄の漁獲能力を抑制するため、大型はえ縄漁船の隻数を増加させないことを決め、実施しています。

世界の漁法別マグロ総生産量(1950-2009)



まき網漁によるマグロ漁獲量が大幅増加

太平洋における大型まき網漁船数の急増は、資源管理上、深刻な問題となっています

注: (1) マグロ類には、クロマグロ、ミナミマグロ、メバチ、キハダ、ビンナガ、かつおを含む。
(2) 出典: RFMOs、編集 三宅

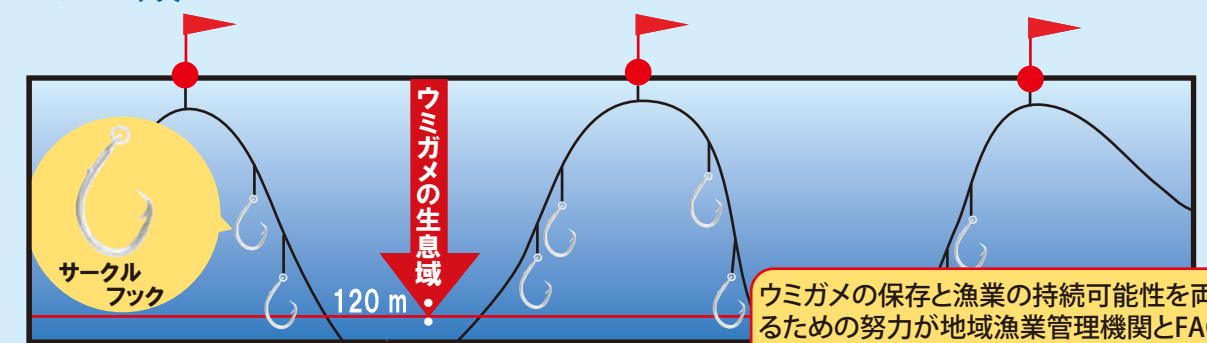
■混獲・偶発的捕獲の削減

OPRTはマグロ延縄漁業によるウミドリやウミガメなどの混獲・偶発的捕獲を削減するための漁業技術の普及に務めています。

▶ **ウミドリ類** : ウミドリの偶発的捕獲を削減するため「トリポール」を使用



▶ **ウミガメ類** : ウミガメの偶発的捕獲を削減するため「サークルフック」を使用



▶ **サメ類** :

OPRTは、登録漁船に対し、混獲したサメの海上投棄を最小限にするよう奨励するとともに、サメの完全利用も奨励しています。

■国際協力の推進

OPRTはマグロ資源・漁業の当面する問題(例:不合理な資源保護運動、過剰漁獲能力問題)について、各国マグロ漁業団体と連携、協力し対応を図っています。